

## JUNET

日本におけるインターネットは、USENETを手本として1984年10月、東京工業大学、慶應義塾大学、東京大学の3大学をUUCPによって接続する形で誕生した。これがJUNETである。

研究者同士の円滑な情報交換とディスカッション支援と、ネットワーク研究者のためのテストベットの目的としており、JUNETは実験ネットワークという位置付けで運用されていた。1985年1月には国際電信電話株式会社研究所においてUSENETと、1986年1月東京大学大型計算機センターにおいてCSNETと接続されるようになり、国際的なコミュニケーションの場としても機能するようになった。

JUNETの最大の功績は、電子コミュニケーションにおいて日本語を利用できるようにしたことであろう。日本語文字コードの取り扱い規則を決めたこと(RFC1468)、そしてそれにしなやかに電子メールやネットニュースなどのソフトウェアを改良したこと、さらに、X Window Systemの漢字フォント(k14)、かな漢字変換システム(Wnn/publicなど)、日本語を利用できるエディター(Nemacsなど)などのフリーソフトウェアの登場などは、すべてJUNETの中で起こったことである。これにより、JUNET自身も急速に広がっていくことになる。

しかし、1988年にはWIDEプロジェクト、TISN(国際理学ネットワーク)、SINETなど、IPによるインターネットが国内に登場し、ネットワークコミュニケーションの主体はこれらのネットワークに移行していった。また、急速に規模が増大したことは、JUNETのボランティアによる運営を困難にしていた。そこで1991年に、ドメイン名を割り当てる組織としてのJPNIC、JUNETに参加する組織を統括するものとしてのJUNET協会がそれぞれ相次いで設立されたのである。

利用者が多くなるにつれて、ネットワークに対する社会的要請は、それまでのアカデミックな目的に限定しての利用から、商用利用を含む自由な利用へと変化してきた。こうした要請に合わせ、日本においても1993年に商用インターネットサービスプロバイダーが誕生した。このような変化に合わせて、JUNET誕生から10周年にあたる1994年10月にJUNET協会が解散し、JUNETは実験ネットワークとしてのその使命を終えた。しかし、日本において現在のインターネットに見られるコミュニケーション文化を根付かせたという意味で、その功績は大きなものだと考える。

(砂原 秀樹・奈良先端科学技術大学院大学)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)